仮貯蔵・仮取扱い実施計画書【例３　防災拠点等でのドラム缶等による灯　　　油，軽油の貯蔵・取扱い】

１　目的

震災等により防災拠点等において非常用発電機及び暖房用燃料として，灯油，軽油をドラム缶で貯蔵し，金属製携行缶，灯油用ポリエチレン缶（以下「携行缶等」という。）に小分けするために必要な事項を予め計画します。

２　仮貯蔵・仮取扱いをする場所

　　　　市・郡　　　　町

３　仮貯蔵・仮取扱いに使用する部分の面積

約　　　　平方メートル（　　　　メートル×　　　　メートル）

４　詳細レイアウト

別紙のとおり

５　仮貯蔵・仮取扱いをする危険物の類・品名・数量

第　　類第　　石油類（　　　　　　）　　　　　　リットル

６　指定数量の倍数

　　　倍

７　貯蔵及び取扱いの方法

(1) 200リットルの金属製容器（ドラム缶）により貯蔵する。

(2) 保有空地を３メートル確保する。

(3) 貯蔵場所と携行缶等に小分けする場所に３メートルの離隔をとる。

(4) 高温になることを避けるため，必要に応じて通気性を確保した日除けを貯蔵場所に設ける。

(5) 第５種消火設備　　　型ABC粉末消火器　　　本を設置する。

(6) 標識，掲示板を設置し関係者に次の事項について注意喚起を行う。

「危険物仮貯蔵・仮取扱所」，「危険物の類・品名・数量（倍数）」，「火気厳禁」

８　安全対策

(1) ドラム本体，手動ポンプ等のアースを確保する。

(2) 危険物の取扱いは，原則として危険物取扱者免状保有者が行う。

９　管理状況

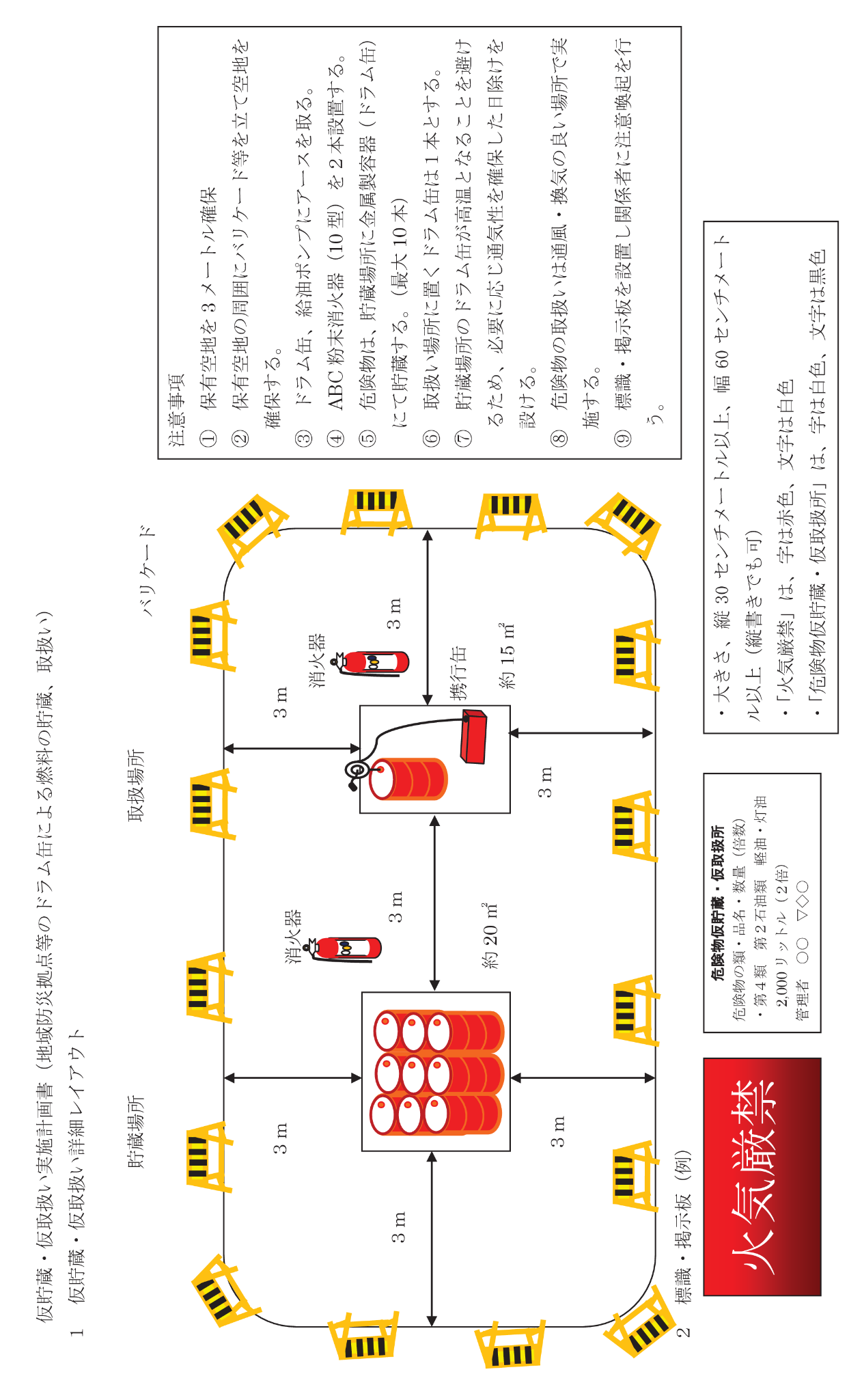
(1) 保有空地の周囲にバリケード等を設け，空地を確保する。

(2) 敷地の出入り管理を徹底し，いたずら・盗難を防止する。

(3) 作業前と作業後に点検を行い，その結果を記録する。

10　その他必要な事項

携行缶等への小分けは，この場所以外では行わない。



（